

アルミ缶 リサイクル ニュース

July
7
2019

Vol. 148



アルミ缶リサイクル協会

Japan Aluminum Can Recycling Association

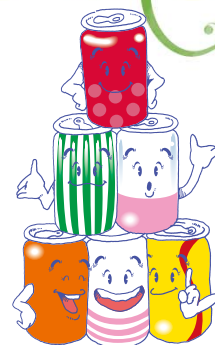
東京都豊島区南大塚1-2-12 日個連会館2階
Tel.03-6228-7764 Fax.03-6228-7769 〒170-0005
<http://www.alumi-can.or.jp>

第215回理事会・第47回定時総会を開催しました

当協会は、6月21日(金)に第215回理事会及び第47回定時総会を開催し、2019年度の事業計画、収支予算等が承認されました。今年度の事業計画については本紙をご参照下さい。定時総会にて、新理事長に田代 泰が選任され、その他5名の副理事長・監事と企画委員長が新任・再任されました。(新役員体制は下記をご参照下さい)



第215回理事会・第47回定時総会の様子



2018(平成30年)度飲料用アルミ缶のリサイクル率93.6%

当協会は、6月21日(金)に記者会見を行い、2018年(平成30年)度の飲料用アルミ缶のリサイクル率(再生利用率)とCAN to CAN率(再生されたアルミ缶のうち、缶材へ利用された割合)を発表しました。当日は約30名のアルミ業界関係、環境関連の報道関係者の皆様にお集まり頂き、田代理事長、内藤副理事長、吉澤企画委員長、事務局から以下の説明を致しました。2018年の

リサイクル率は、昨年度より1.1ポイント向上し93.6%と目標の90%以上が維持されました。またCAN to CAN率は71.4%(前年度67.3%)と昨年を4.1ポイント上回りましたが、国内消費量の25%に相当する約8.0万トンのUBCが輸出(主に韓国)されています。(前年度6.7万トン)



記者発表風景(左)吉澤企画委員長(中央)田代理事長(右)内藤副理事長



リサイクル率

※1 再生利用重量(309,443ト) = **93.6%**
消費重量(330,664ト) (2017年度 92.5%)

※1 輸出分を含む



CAN to CAN 率

缶材向け重量(170,803ト) = **71.4%**
国内再生利用重量(239,245ト) (2017年度 67.3%)



2019年度の役員

★理事長

田代 泰 (新任)
昭和アルミニウム缶(株)
代表取締役社長

★副理事長

内藤 英一 (新任)
ユニバーサル製缶(株)
取締役社長

森 泰治 (再任)

東洋製罐グループホールディングス(株)
常務執行役員

小林 淳 (再任)

大和製罐(株) 常務取締役

坂田 清司 (新任)

日本軽金属(株) 執行役員

深山 晋 (新任)

三菱アルミニウム(株) 執行役員

★企画委員長

吉澤 健司 (新任)
ユニバーサル製缶(株)
担当役員補佐

★監事

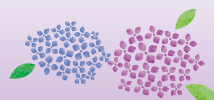
村上 隆明 (新任)
三井物産メタルズ(株)
軽金属原料部 東京営業室長

大堀 真悟 (新任)

昭和電工(株)アルミ機能部材事業部
企画グループリーダー

★専務理事

保谷 敬三 (新任)
ユニバーサル製缶(株)





新理事長のご挨拶

この度、アルミ缶リサイクル協会の理事長に就任致しました田代でございます。就任にあたり一言ご挨拶を申し上げます。当協会は1973年の設立以来、40年以上にわたりアルミ缶のリサイクルを推進することで、環境保護、資源の有効活用、省エネルギーに貢献することを目標に活動してまいりました。その結果、2018年のリサイクル率は93.6%と4年連続で90%台を達成することができました。これも関係各位の長年に亘るアルミ缶回収活動へのご協力の賜物と、深く敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げます。当協会は、容

器包装リサイクル8団体で構成する「3R推進団体連絡会」の一員として3Rの自主行動計画を設定、事業者自らが実践する3R行動を進めるとともに、他団体と協調しての広報・啓発活動、各種調査や研究活動も行っております。今後は今まで以上に協調を深め、各団体の相乗効果が出るような活動を模索していきたいと考えております。引き続き当協会の活動に一層のご支援をお願いするとともに、皆様のご健勝を祈念して就任のご挨拶とさせていただきます。



田代 泰 理事長
昭和アルミニウム缶(株)
代表取締役社長

2019年度 アルミ缶リサイクル協会 事業活動計画

1. 概要

2018年の飲料用アルミ缶の国内需要量は約217億缶と推定され、前年比99%の微減となりましたが、引き続き200億缶の大体は維持されました。国内ビール系の全体需要が14年連続前年割れとなった影響でビール系缶需要も減少し、またPETコーヒーマグが大きく増加したために数年前に激増した缶コーヒーマグやボトル缶コーヒーマグ需要が減退し、RTD向けは堅調に増加したものの総需要は微減となりました。これは、コンビニの拡大により消費者が多様な商品の選択購入が可能となり、飲料容器の好みも短期間で大きく変動しやすくなったためと思われます。2018年度のリサイクル活動は堅調に推移し、リサイクル率は前年比1.1ポイント向上の93.6%と目標の90%以上が4年連続達成できました。2018年の1缶当たりの平均重量は16.11gとなり前年比で0.01g削減となりました。アルミ缶の軽量化も限界に近づいているため以前のような大幅なリデュースは難しく、基準年(2004年)に対しての軽量化率は5.3%と目標の5.5%に今一步となっていますが、引き続き関係者への啓発に努めます。UBCについては、前年比1.4万トンの増加の7.9万トンのUBCが輸出(主に韓国)されており、国内需要量の25%近くのUBCが輸出されている実態は、引き続き国内資源循環の観点からは憂慮すべき事態と言えます。

2. 基本方針

(1) アルミ缶リサイクルの推進を円滑に進めます

- (1) アルミ缶回収ルート of 整備・支援を行います
- (2) 広報・啓発活動を行います
- (3) 調査・情報提供活動を行います
- (4) 協会企画委員会、ワーキンググループ(WG)の活動を行います

(2) 3R推進団体連絡会の一員として積極的に3R活動に取り組みます

<目標>

- (1) 安定的にリサイクル率90%以上を維持します
- (2) 2020年までに2004年比で5.5%の軽量化を目指します
- (3) アルミ缶回収協力者表彰数を学校・一般で各5件以上増やします

3. 事業活動計画の内容

(1) アルミ缶リサイクルの推進を円滑に進めます

(1) アルミ缶回収ルート of 整備・支援

事業者責任としてアルミ缶回収率を上げるために関係者との連携、協働の推進を行います。

- ① 当協会プレゼンス向上を目的に官庁や関連団体への訪問・支援、自治体、消費者団体との交流を積極的に行います。
 - ・ 官庁(経産省金属課)の定期会合への参加・訪問、情報提供を行います。
 - ・ 全国自治体の開催する環境イベントや消費者団体主催のイベント等へ積極的に参加し、ノベルティーや資料の提供を通じて協会の認知度向上と交流機会の増加を図ります。
 - ・ リデュース・リユース・リサイクル推進協議会主催の「3R推進功労者等表彰」の候補者推薦を継続して行います。
- ② アルミ缶回収表彰制度の認知度向上
 - ・ 「アルミ缶回収小・中学校協力者表彰」、「アルミ缶回収一般協力者表彰」、及び「優秀回収拠点表彰」制度の認知度向上を目的に、学校・自治体、回収拠点、社会福祉協議会等への表彰制度のPRを強化します。
 - ・ アルミ缶回収協力者表彰の都道府県別データを充実させ、回収拠点の新規発掘/登録や推薦依頼活動に活用します。

(2) 広報・啓発活動の推進

アルミ缶及び回収活動への理解を深めてもらうための広報・啓発活動を行い、情報のアップデートに努めます。

- ① 若年層への環境教育としての広報・啓発活動
 - ・ 環境教育への協力、支援として小中学校向けにパンフレット/小冊子、DVD、ポスター等の配布や、再生地金サンプル等の教材貸しを行います。
 - ・ 中学生の修学旅行時等の来協学習を受け入れます。
- ② 自治体・消費者への広報・啓発活動
 - ・ 自治体や各消費者団体主催の展示会、自治体講演会への参加、各種書籍・雑誌への寄稿等を行います。
 - ・ エコプロ2019展示会へ参加します。
 - ・ タブ回収の活動については引き続き正確な情報提供を行います。(歴史的な経緯と怪我の危険性について)
 - ・ ホームページにタイムリーな情報提供を行うと共に、協会やアルミ缶回収のPRを行います。
- ③ マスコミ関係者や支援団体への広報・啓発活動
 - ・ 定期的に報道発表を実施します。(6月:単年度事業計画とアルミ缶需要量、リサイクル率、リデュース率、アルミ缶再生利用フロー図)

- リサイクル施設の研修見学会を実施します。(10月)
- 広報紙「リサイクルニュース」(4回／年発行)を発行、配付します。

(3) 調査・情報提供活動の推進

- 2018年度の「アルミ缶リサイクル率」(「CAN to CAN率」含む)を調査・公表します。
- 2018年度の「アルミ缶リデュース率」、2017年度の「アルミ缶再生利用フロー」を調査・公表します。
- 日本アルミニウム協会等と連携し「アルミニウムと健康」連絡協議会に参画します。
- アルミ缶輸出・入缶数量、及び世界のリサイクル率についての公表と、そのデータ精度を高めます。

(4) 当協会企画委員会、ワーキンググループ(WG)活動の推進

- 当協会が当面する課題や対応を企画委員会と各WGで対応していきます。特にリサイクルフロー調査WG、3R推

進WG、広報WGは継続し、リサイクル率向上のための施策、自主行動計画のフォローアップ、効率的・効果的な広報活動の推進に取り組みます。

(2) 3R推進団体連絡会メンバーとしての活動

「自主行動計画2020」に引き続き取り組みます。

(1) 事業者自ら実践する3R推進計画の推進

- リデュース、リサイクル目標達成に向けて取り組みます。

(2) 普及・啓発活動の推進

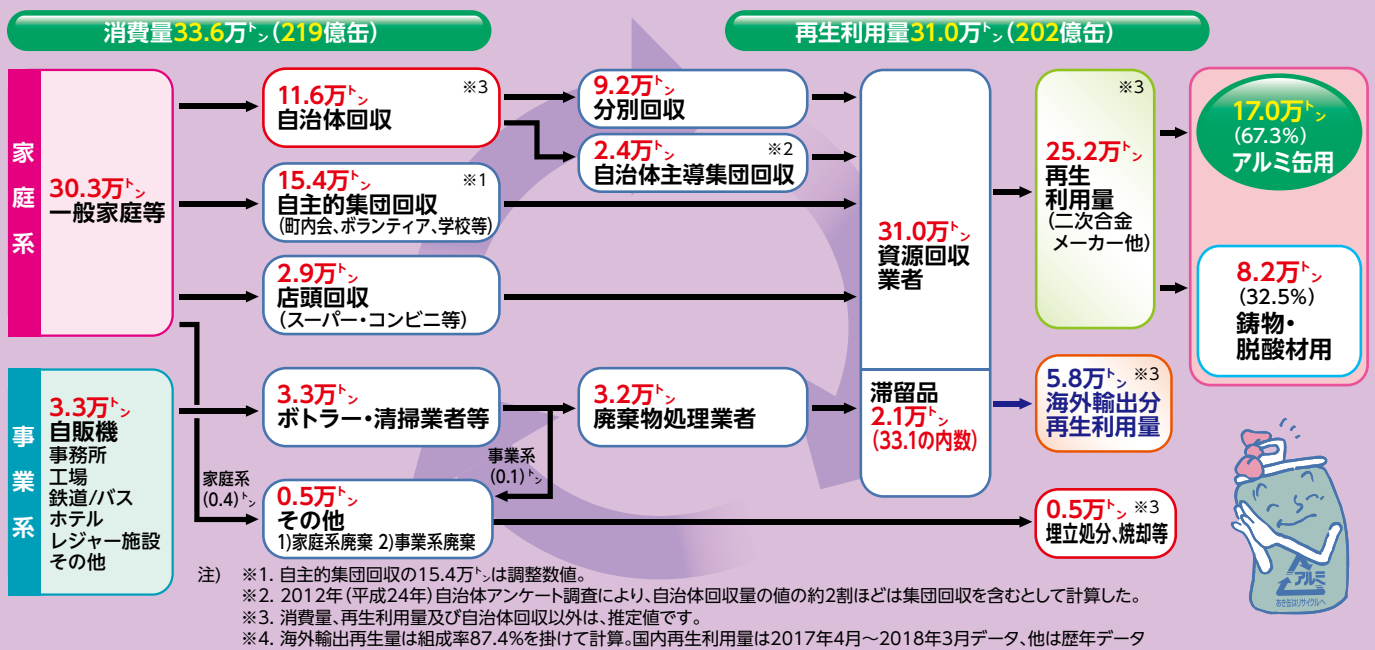
- 3R推進フォーラム、3R交流セミナー意見交換会(3都市予定)等により市民、行政との意思疎通を図ります。
- 市民リーダー育成のための支援、エコプロ展示会への参加、リサイクル冊子の作成・配布等を行います。

(3) 今後の中長期活動計画の策定

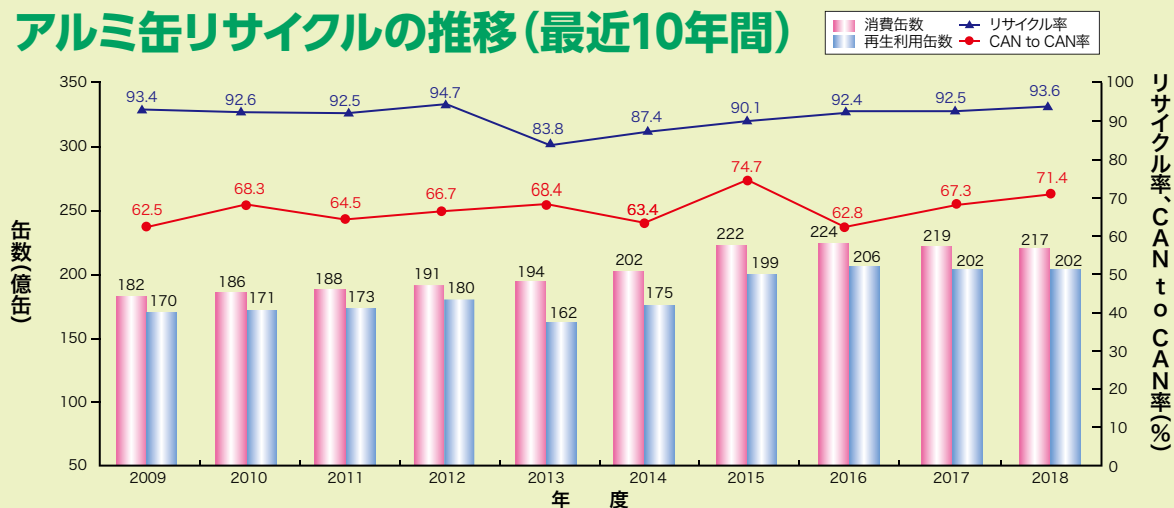
- 第4次自主行動計画に向けて、3R推進団体連絡会の事業活動計画策定に参画します。

2017(平成29)年度 アルミ缶再生利用フロー図

アルミ缶消費重量は33.6万トン。再生利用量は31.0万トン(国内25.2万トン+輸出5.8万トン)。リサイクル率は92.5%



アルミ缶リサイクルの推移(最近10年間)



参考▶ **世界各国のアルミ缶リサイクル率** (2019年6月末日更新)

国名	需要量(億缶)					リサイクル率(%) リサイクル率の算出方法は各国で異なる				
	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
イギリス*1	94	96	98			65	65	65	68	
イタリア*1	21	23	22			67	72	74	70	
フランス*1	43	47	51			57	64	67	68	
ドイツ*1	34	33	36			96	99	99	99	
スペイン*1	65	62	63			65	66	66	62	
ノルウェー*1		4	5			96	95	95	96	
アメリカ*2	922	940	933	932	890	67	66.7	66.5	64.3	63.9
ブラジル*3	198		229	231		97.9		98.4	97.9	
韓国*4						81	87	78	75	76
日本	191	194	202	222	224	94.7	83.8	87.4	90.1	92.4

*1 需要量: BCM (Beverage Can Makers Europe)の年次報告書による
リサイクル率: EAA (European Aluminium)のプレスリリースによる

*3 ABAL (The Brazilian Aluminum Association)のプレスリリースによる

*4 KORA (Korea Resource Circulation Service Agency) ホームページより抜粋

*2 需要量: CMI (The Can Manufacturers Institute)の年次報告による
リサイクル率: AA (The Aluminum Association)のレポートによる

来協学習

毎年、修学旅行シーズンであるこの時期には、全国の中学校のグループが当協会を訪れ、アルミ缶のリサイクルについて勉強していかれます。協会からは現物のサンプル・DVDを使って、3Rの基本・アルミニウム・アルミ缶のリサイクルについて説明しています。今年は三重県いなべ市立藤原中学校より、4名の生徒が来協されました。皆さん3R・アルミ缶のリサイクルについてしっかりと勉強していかれました。そのなかから黒田 花梨さんからのお礼の手紙文を掲載致します。(原文のまま)

くださったときにとても感動しました。3Rのリデュース・リユース・リサイクルをする事によって地球の資源を大切に、環境にやさしくできることを学びました。今回の学習で3Rの大切さと地球環境の現状、資源を分けることの大切さなどを学ばせていただきました。学ばせていただいた事は他にもありますが、これからの生活のなかでは資源を正しく分別することを大切にしていきたいです。少しの間でしたが、本当にお世話になりました。お体を大事になさってこれからもますますご活躍ください。敬具

「拝啓 風薫る季節となりました。皆様いかがおすごでしょうか。先日はお忙しい中、私たちの班別分散学習の為に1時間30分もお時間をいただきありがとうございました。その学習の中で特に印象に残ったことは「分別することの大切さ」です。最後に「混ぜればゴミ、分ければ資源。ゴミになるか、資源になるかはあなた次第」と教えて



いなべ市立藤原中学校の生徒



協会からのお願い

● タブは缶から外さずいっしょにリサイクル

アルミ缶のタブは環境保護のため、缶フタから離れないようにしてあります。タブはタブだけで回収するのではなく、缶に付けた状態で丸ごと回収してください。無理にタブを取るとケガをする場合もあり危険です。

● ボトル缶のキャップの取扱い

飲料用アルミボトル缶のキャップは、アルミ製です。キャップも貴重なアルミ資源です。キャップ・本体とも軽く水洗いした後、中の水分をよく切ったうえ、キャップを軽く締めて回収してください。

● アルミ缶にタバコを入れないでください

アルミ缶にタバコの吸殻を入れると、リサイクルの妨げになるだけでなく、火災の原因になる可能性があります。

アルミ缶のリサイクルは
タブをつけたまま!



編集後記

- 新元号から早2か月。令和の響きにも慣れてきた感じがあります。来年の今頃はオリンピック一色なのか と思う季節となりました。
- 今年も梅雨の時期を過ぎ、いよいよ本格的な夏がスタートする時期です。皆様も体調に留意され楽しい夏を過ごされることを祈念いたします。

アルミ缶リサイクルニュース第148号

発行日 令和元年7月19日
 発行人 保谷 敬三
 編集人 小林 裕
 発行所 アルミ缶リサイクル協会